

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	風の子びれっじ希生歩		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 8日		～ 令和8年 2月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の特性や発達状況に応じた個別支援計画を作成し、職員間で共有した上で支援を実施している。	活動内容については、大枠を設定しながらも、内容を工夫することで活動が固定化しないようにしている。また、発達段階に応じて、同じ活動でも目標を個別化して対応している。	障害特性や支援技法についての知識をより高めるため、職員研修の充実を図り、より専門性の高い支援を提供できる体制を整える。
2	日々の支援記録や振り返りを通じて職員間の情報共有を行い、支援内容の改善に繋げている。保護者様にはメールにて実施記録を送信しており、振り返りがしやすい環境を構築している。	保護者様には日々の実施記録に写真等も添付し、事業所での過ごし方がイメージしやすくしている。また、定期的にSNSに支援内容を公表しており、不安感軽減に有効である。	本人及び保護者様に同意の上、学校とも連携し、放課後等デイサービスでの取り組みの様子が把握していただけるように関わりを強化していく。
3	小学生から高校生までのメンバーさんを受け入れており、縦の人間関係構築の場となっている。	年上メンバーさんは、他人から頼りにされる環境を提供することで、自己有用感向上に有効である。年下メンバーさんにとっては、身近にモデリングする存在があることで、適切行動強化にあたり、効果的である。	集団における個々の役割を設定したり、トークンシステムを用いることで、適切行動の強化をはかっていく。就労を控えたメンバーさんにとっては、トークンシステムが将来、給料や工賃につながるようにシステムの構築を行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館など、地域の子どもたちとの交流機会が十分ではない。	過去に児童館に行く機会があったが、置いてある玩具に年齢制限等があり、自身の年齢では使えないということの理解がメンバーさんによっては難しく、不穏の原因となる場面が多々見られたことで行かなくなっている。	自法人で毎年開催している学園祭において、地域の方々がより一緒に参加しやすい企画を考案していく。地域の方々とお話をしたりすることは難しい可能性もあるが、一緒にゲームに参加=交流であると認識し、実施していく。
2	ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムの実施が十分とは言えない。	どのように実施するのか、細かいプログラムを突き詰めていない。	海部南部自立支援協議会と連携し、今年、ペアレントトレーニングの概要についての研修を企画、参加を行った。今後は、より実践形式のある研修に参加し、自法人でのペアレントトレーニングを企画検討していく。
3	安全計画や避難訓練等について、保護者への周知が十分に行き届いていない可能性がある。	避難訓練についての記録も残してはいるが、その日に参加をされた方でない個人情報観点から記録を見ていただくことは難しい。安全計画についてはHPにあげているが、情報発信方法が十分ではない可能性がある。	個人情報保護を十分に気を付けた上で、避難訓練等の実施状況を見ていただくことができる情報発信を検討していく。